

赤十字NEWS

October 2016 Vol.917
http://www.jrc.or.jp



赤十字新聞 編集・発行/日本赤十字社 広報室 〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3 TEL:03-3438-1311 一部20円 赤十字新聞の購読料は、社費に含まれています。



人道支援車両に空爆攻撃 シリア赤ボランティア、 職員が犠牲に

写真: ロイター/アフロ

激しい紛争の続くシリア北部アレッポ近郊で9月19日、支援物資を積んだシリア赤新月社の車両と倉庫が空爆を受け、数千人分の食料や医薬品が灰塵と化しました。同赤新月社の職員1人を含む約20人の市民も犠牲に。赤十字国際委員会(ICRC)のペーター・マウラー総裁は「紛れもない国際人道法違反で言語道断」と攻撃を非難。国際赤十字・赤新月社連盟(連盟)の近衛忠輝会長も「我々は、シリア赤新月社への連帯の中で、人道支援に携わる人々とボランティアの保護を確実にするよう国際社会に訴えている。この紛争の当事者ではないのだから」と人道支援活動への攻撃中止を強く求めています。各国の赤十字・赤新月社は抗議の表明としてSNSでプロフィール画像を赤くする運動を実施。日本国内でも日赤各支部・施設をはじめとしたソーシャルメディアが赤一色に。悲しみと連帯を深めた運動は、50万人を超える人々が目にするなど、急速に広がりました(関連記事8面)。



連盟のFacebookトップ画面

CONTENTS

TOPICS

第1回防災推進国民大会
「自助・共助の輪を
ひろげよう」
赤十字ユース委員会が
スタート
平成28年
熊本地震災害義援金情報

TOPICS

入試案内
日赤の看護大学・
看護専門学校
10月は「里親月間」

SPECIAL

青少年赤十字(JRC)
「生きる力」を育む実践に
全国から熱い視線

AREA NEWS

栃木・香川・長野・徳島・神奈川
兵庫・東京・沖縄
平成28年台風10号等
災害義援金情報
健康豆知識
せきぜんそく

WORLD

人道支援の現場から 特別編
私たちの問題として
取り組みたいシリア人道危機
2016年イタリア中部地震
救援金情報



今月の「出会い」



ミス・ユニバース日本代表
中沢 沙理さん

本物の美しさをめざして

多くのシリア難民が避難するヨルダンを9月に訪問。同国赤新月社の難民支援活動に参加しました。「紛争で苦しむ人々への人道支援を赤十字が世界で行っていると知り、胸が熱くなりました。そんな赤十字にボランティアとして加わることができてうれしかったです」

ボランティアに興味を持ったきっかけは、高校1年生の時に訪れたベトナムとカンボジア。「子どもたちの厳しい生活環境にショックを受けました。自分の見たこと、感じたことを伝えていかなければと思いました」と振り返ります。ミス・ユニバースへの応募はこの時の思いが引き金に。世界大会優勝者には、世界でのチャリティーやボランティア活動に参加する特典が与えられるからです。「憧れの女性はオーディリー・ヘプバーン。美しさはもちろん、慈善活動に半生を捧げた生

き方が素敵です。彼女のような女性を目指していきたい」

そんな中沢さんの思いを受け、日本赤十字社とヨルダン赤新月社の連携で実現したヨルダン訪問。出会った難民の中には、学校に通わずに働いて家計を支える子どもと病気で動けない母親もいました。「何もできない自分に無力感も感じました。でも、日本代表に選ばれ、メディアを通じて発信するチャンスがいただけた。この機会を生かし、こうした現状を広く伝えていきたい」と目を輝かせます。

PROFILE

1994年滋賀県生まれ。歯科大学に通う大学生。今年3月、世界3大ミス・コンテストの一つ「ミス・ユニバース」の日本大会で日本代表に選出される。世界大会(開催日未定)に向け、現在ウォーキングや英会話、社交マナーなどトレーニング漬けの日々。

第1回防災推進国民大会

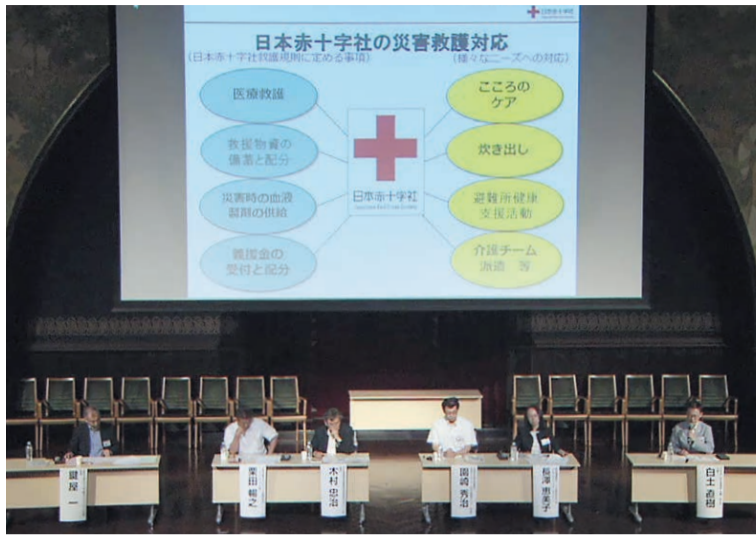
「自助・共助の輪を広げよう」 日赤 近衛社長が主催者あいさつ

国民の防災意識向上を目的とした8月27、28日に都内で開かれ、主催者を代表して防災推進協議会会長、防災推進国民会議議長を務

める日本赤十字社の近衛忠輝社長があいさつ。災害に備えた「自助・共助」の意識を広げることの大切さを訴えました。



多くの団体が参加した今年大会。企業の取り組みや自治体との連携などさまざまな角度から防災・減災に関する議論が交わされました。



全国のボランティアネットワークJVOADや全国社会福祉協議会、熊本県庁などから防災の実践について発表があり白土次長からは災害時の日赤の役割などについて説明がなされた

内閣府の松本純防災担当大臣の開会宣言に続いてあ

「市民セクターの連携をテーマにしたセッションでは、日赤本社救護・福祉部の白土直樹次長が「市民団体の効果的な連携が求められる。そのためには普段からのつながりが大切」と指摘。各団体の活動資源を事前に見直ししておくこと

赤十字ユース委員会がスタート 若者が主人公となる 赤十字運動

若者による赤十字ボランティア活動への参加は私たちが盛り上げていきます！—そんな熱い思いを持った10人の青年による「赤十字ユース委員会」が7月31日に発足。若い世代が抱える諸課題を見つめ直すとともに、赤十字活動へ参加促進や海外ユースとの交流、若い世代がリーダーシップを発揮できる仕組みづくりなどを提案し、全国のボランティアとともに挑戦しています。

現在、世界190カ国1700万人のボランティアが活動していますが、その約半数は30歳以下のユース世代です。しかし日本では、青年・学生の赤十字ボランティアは約7000人と、全赤十字ボランティアの約10%に過ぎません。

ボランティアに占める割合は6%に過ぎず。こうした状況を打ち破り、日赤の中で若者の力をさらに輝かせていくのが「赤十字ユース委員会」に課せられた役割です。

全国公募により選ばれた10人のメンバーは、地域や大学の奉仕団などで活動している10〜20代の男女。委員長の神奈川県青年赤十字奉仕団の田中友美さんは「設立にあたりご尽力いただいた皆さまに感謝申し上げます。思いやエネルギー、発想力と実現力を大切に、個やチームの強みを生かし、全国のボランティア、職員の皆さまと『共に』活動を展開していきたいと思っています」と抱負を語っています。

平成28年熊本地震災害

2017年3月31日(金)まで、**義援金の受付を行っています。**

引き続き、皆さまのご支援を宜しくお願い申し上げます。

義援金の協力方法

【郵便振替(ゆうちょ銀行・郵便局)】
口座記号番号
00130-4-265072

口座加入者名
日赤平成28年熊本地震災害義援金

※ゆうちょ銀行・郵便局の窓口でのお振り込みの場合は、振込手数料は免除されます

※ゆうちょ銀行の振込用紙の半券は、受領証の代わりとなり、「免税証明書」として寄附金控除申請の際にご利用いただけます

※その他、銀行振込および各都道府県支部でも受け付けています。詳しくは下記ホームページをご覧ください

義援金の受付・送金状況

| | |
|------|------------------------------------|
| 【受付】 | 264億9,370万6,442円 (2016年9月21日現在) |
| 【送金】 | 258億7,202万6,500円 (2016年9月26日現在) |

※日本赤十字社にお寄せいただいた「義援金」は、手数料などはいただくことなく全額が被災県に設置された義援金配分委員会を通じて、被災者に届けられています

※関連事務費については、活動資金(日赤を支援くださる方がたからの会費や寄付金)により対応しております

日本赤十字社ホームページ (<http://www.jrc.or.jp>)

若い世代がリーダーとして社会的課題に取り組む姿を当たり前のように見られる日も、そう遠くないかもしれません

戦争と看護婦

看護婦たちが命をかけて
救護活動をした史実を、
多くのインタビューと
資料によって、明らかにする。

大戦中、日本赤十字社が派遣した看護婦は、兵士と同様に戦時召集状を受け、海外の日本軍の病院や病院船で、危険に晒される勤務に当たっていました。戦後明らかになったことは、厳しく悲惨な状況が、彼女らの身にも襲いかかったことでした。日本赤十字社保管の九六〇にのぼる救護班の活動記録と元看護婦への聞き書きによって、戦争の現実を記しました。

四六判・上製・286頁
定価・本体2200円十税

クリスティン・ハレット
中村哲也 監修 / 小林政子 訳

推薦
近衛忠輝氏
日本赤十字社社長
国際赤十字・赤新月社連盟会長

川嶋みどり 日本赤十字看護大学 名誉教授
川原由佳里 日本赤十字看護大学 准教授
山崎裕二 日本赤十字看護大学 教授
吉川龍子 元日本赤十字看護大学 司書

広告
国書刊行会
〒1174-0056 東京都板橋区志村1-13-15
TEL 03-5970-7221 FAX 03-5970-1427

入試案内

日本赤十字社の看護大学・看護専門学校 学びの場は全国 活躍のフィールドは世界です

看護師養成を通じて、「人道」の実践者を育てるのが日本赤十字社の看護教育です。看護師になるために国が定めた科目に加え、「赤十字概論」「災害看護論」など赤十字ならではのカリキュラムを学べるのが特色。赤十字病院と連携した実習教育も魅力です。

現在、全国の看護大学6校・看護専門学校16校で学



看護教育・実践のリーダー育成 赤十字5大学の「共同大学院(博士課程)」

看護教育や看護実践のリーダーとなる人材の育成を目指し、日本赤十字社の5つの看護大学が「共同大学院」を今春から開校しています。夜間講義や履修期間(3年)の延長制度など、働きながら学べるのが特色です。

共同大学院は、北海道、秋田、豊田、広島、九州国際の5つの看護大学が持つ教育研究資源を融合した博士課程。5大学をテレビ会議システムで結び、遠隔授業をリアルタイムで行っています。日赤北海道看護大学の河口てる子学長・専攻長は「5大学の連携による相乗効果が確実に出ています。志を持つ方々の研究を所属大学を越えた複数の教員でサポートします」と語っています。



■ 看護専門学校 ■ 助産師学校 ■ 大学

- | | |
|---|--|
| 伊達赤十字看護専門学校(北海道) 1 http://date-kango.jrc.or.jp/ ☎ 0142-23-2350 平成29年1月19日(木)、20日(金) | 富山赤十字看護専門学校(富山県) 8 http://www.toyama-med.jrc.or.jp/school/ ☎ 076-442-0844 平成29年1月6日(金) |
| 浦河赤十字看護専門学校(北海道) 2 http://urakan.jrc.or.jp/ ☎ 0146-22-1311 (前期)平成29年1月19日(木)、20日(金) | 大津赤十字看護専門学校(滋賀県) 9 https://www.otsu-sn.jrc.or.jp/ ☎ 077-522-9646 平成29年1月12日(木) |
| 石巻赤十字看護専門学校(宮城県) 3 http://www.ishinomaki.jrc.or.jp/school/ ☎ 0225-92-6806 平成29年1月20日(金) | 京都第一赤十字看護専門学校(京都府) 10 http://www.kyoto1-jrc.org/vocational_school/ ☎ 075-533-1269 平成29年1月17日(火) |
| さいたま赤十字看護専門学校(埼玉県) 4 http://members.jcom.home.ne.jp/3234554001/ ☎ 048-852-7927 平成29年1月22日(日) | 京都第二赤十字看護専門学校(京都府) 11 http://www.kyoto2.jrc.or.jp/nursing/ ☎ 075-441-2007 平成29年1月17日(火) |
| 長岡赤十字看護専門学校(新潟県) 5 http://www.nagaoka.jrc.or.jp/school/ ☎ 0258-28-3600 平成29年1月19日(木)、20日(金) | 大阪赤十字看護専門学校(大阪府) 12 http://www.osaka-med.jrc.or.jp/sckango/index.html ☎ 06-6774-5055 平成29年1月21日(土) |
| 長野赤十字看護専門学校(長野県) 6 http://www.nagano-med.jrc.or.jp/school/ ☎ 026-226-4826 平成29年2月2日(木)、3日(金) | 姫路赤十字看護専門学校(兵庫県) 13 http://himeji.jrc.or.jp/school/ ☎ 079-299-0052 平成29年1月18日(水)、19日(木) |
| 諏訪赤十字看護専門学校(長野県) 7 http://www.suwa-kango.jrc.or.jp/ ☎ 0266-57-3275 平成29年1月6日(金) | 和歌山赤十字看護専門学校(和歌山県) 14 http://www.jrcwsn.jp/ ☎ 073-422-4171 平成29年1月19日(木) |

岡山赤十字看護専門学校(岡山県) 15
<http://www.okayama-med.jrc.or.jp/school/>
 ☎ 086-223-6800
 平成29年1月19日(木)

※松山赤十字看護専門学校は、平成28年度入学生をもって学生募集を停止しました。

日本赤十字助産師学校(東京都) 16
<http://www.med.jrc.or.jp/relation/tabid/388/Default.aspx>
 ☎ 03-3400-0112
 平成28年12月6日(火)

日本赤十字看護大学(東京都) 17
<https://www.redcross.ac.jp/>
 ☎ 03-3409-0875

| | |
|----------------------|-----------|
| 看護学部看護学科 | 2月3日(水) |
| 看護学研究科看護学専攻 修士・博士課程 | 11月19日(土) |
| 看護学研究科国際保健助産学専攻 修士課程 | 11月19日(土) |
| 看護学研究科共同災害看護学専攻 博士課程 | 11月19日(土) |

日本赤十字秋田看護大学・短期大学(秋田県) 19
<http://www.rcakita.ac.jp/>
 ☎ 018-829-4000(大学)、018-829-3000(短大)

| | |
|--------------------|--------------------|
| 看護学部看護学科 | センター入試利用: 2月11日(土) |
| 看護学研究科看護学専攻 修士課程 | 1月21日(土) |
| 看護学研究科共同看護学専攻 博士課程 | 1月21日(土) |
| 短期大学介護福祉学科 | 2月11日(土) |

日本赤十字広島看護大学(広島県) 21
<http://www.jrchcn.ac.jp/>
 ☎ 0829-20-2800

| | |
|--------------------|-----------|
| 看護学部看護学科 | 2月4日(土) |
| 看護学研究科看護学専攻 修士課程 | 1月21日(土) |
| 看護学研究科共同看護学専攻 博士課程 | 9月10日(土)* |

*実施済:今年度は募集終了

日本赤十字北海道看護大学(北海道) 18
<http://www.rchokkaido-cn.ac.jp/>
 ☎ 0157-66-3311

| | |
|--------------------|----------|
| 看護学部看護学科 | 2月4日(土) |
| 看護学研究科看護学専攻 修士課程 | 2月25日(土) |
| 看護学研究科共同看護学専攻 博士課程 | 2月25日(土) |

日本赤十字豊田看護大学(愛知県) 20
<http://www.rctoyota.ac.jp/>
 ☎ 0565-36-5111

| | |
|---------------------|----------|
| 看護学部看護学科 | 1月28日(土) |
| 看護学研究科看護学専攻 修士課程 | 2月21日(火) |
| *看護学研究科共同看護学専攻 博士課程 | 2月21日(火) |

*実施未確定

日本赤十字九州国際看護大学(福岡県) 22
<http://www.jrckicn.ac.jp/>
 ☎ 0940-35-7001

| | |
|--------------------|----------|
| 看護学部看護学科 | 2月4日(土) |
| 看護学研究科看護学専攻 修士課程 | 1月28日(土) |
| 看護学研究科共同看護学専攻 博士課程 | 1月28日(土) |

*いずれも一般入試の直近の日程のみ示しています。推薦区分や出願期間ほか、詳細は各校のHPをご覧ください

10月は「里親月間」

秋田赤十字乳児院では シンポジウムを開催

両親がしなくなったたり病気になるなど、さまざまな事情により家庭での養育が困難になった子どもたちを、自分の家庭に迎え入れて育てる「里親」。厚生労働省は毎年10月を「里親月間」とし、里親制度の普及啓発の取り組みを全国で展開しています。日本赤十字社が全国9カ所で開催する乳児院や児童養護施設でも、月間に合わせてシンポジウムなどを開催する予定です。

特定の大人との愛着関係の中で生活することは、子どもの健全な成長に理想的な環境といえます。そうした家庭環境が提供できる里親制度は、欧米主要国で普及が進んでおり、里親等委託率(家庭で生活できない子ども)のうち里親家庭などで生活している子どもの割合は50〜90%にも達しています。

しかし、日本では里親制度そのものに対する理解が進んでいないこともあり、委託率は全国平均で16.5%(平成26年度末現在)にとどまっています。こうした現状に、日赤の乳児院 児童養護施設では、日頃から里親認定前研修やスキルアップ研修、里親サロンなどの開催を通じて、里親制度の普及啓発に取り組んでいます。

秋田赤十字乳児院(秋田市)は、県内初となる「秋田県里親シンポジウム」を10月15日(土)に開催。「里親として養子縁組のこと」「経済的支援はあるの?」など里親制度のイロハについてもお答えします。



乳児院では小学校就学前までしか養育できません。退所後も自分の家庭で育つことができない子どもたちに、他施設で18歳まで生活するのはなく、「里親(あなた)に会えて本当によかった」と思える人生をプレゼントしたい!という思いで、制度の普及啓発に取り組んでいます

社会福祉法人黎明会 (公社)全国有料老人ホーム協会正会員
介護付有料老人ホーム
熱海 ゆとりあ の 郷
 雄大な眺望と温暖な風土のもと、心豊かに暮らす...
 「熱海ゆとりあ の 郷」には、ほんものの豊かさ、心の安らぎがあります

特別見学会の日程
10月12日(水)、21日(金)、27日(木)
11月16日(水)、25日(金)、29日(火)

熱海ゆとりあ の 郷に住まう魅力
 歴史ある社会福祉法人が経営母体
 温暖な気候 必見の眺望
 24時間365日 医師・看護師が常駐
 自慢の温泉
 暮らしの多様なサービス
 安心の「終のすみか」

熱海ゆとりあ の 郷「東京入居相談室」
 〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3 日本赤十字社ビル東館2階
検索 熱海 ゆとりあ ホームページ <http://www.yutoria.net>
 見学の申込みや問い合わせは、下記フリーダイヤルまで。
 フリーダイヤル **0120-058-211** 受付時間/9時~17時 月曜~金曜

●所在地 / 〒413-0038 静岡県熱海市西熱海町1丁目24番1号 TEL.0557-81-2322 / FAX.0557-82-5260
 ●交通 / 新幹線・東海道本線熱海駅下車 熱海駅から専用マイクロバス運行(約15分) ●類型 / 介護付有料老人ホーム(一般型) 特定施設入居者生活介護 ●居住の権利形態 / 利用権方式 ●利用料の支払い方式 / 一時金方式 ●入居時の要件 / 入居時自立 ●介護保険 / 静岡県指定介護保険特定施設(一般型特定施設) ●介護予防特定施設 ●介護居室区分 / 全室個室 ●一般型特定施設である有料老人ホームの介護にかかわる職員体制 / 2.5:1 以上

青少年赤十字 (JRC) とは

命と健康を大切に活動を通じて、地域社会や世界のことを考えられる子どもたちを育てます。始まりは大正11年と、90年以上の長い歴史を持っています。

JRCへの加盟は学校や部活動単位により、幼稚園、保育所、小・中・高等学校、特別支援学校などの中に組織されています。日本赤十字社では研修や教材を用意していますが、活動内容は各校が自主的に判断しています。

赤十字は現在、世界190の国と地域に姉妹社があり、多くの国で青少年メンバーが活動。外国では「Red Cross Youth (RCY)」と呼ばれることもあります。学校教育の中に位置付けられているのは日本のJRCの大きな特徴です。



全生徒がJRCメンバー 「誰かのために実践したい」

「東日本大震災から5年が経って報道も少なくなっている中で、自分たちの目で被災地の今を見てみたい」と語るのは、東京・世田谷にある私立下北沢成徳高等学校JRC部の長田珠英さん(2年)と齋藤美佳さん(2年)。

「ボランティア体験をしたい」(長田)、「将来は赤十字や国際NGOで働きたい」(齋藤)という思いを抱いてJRC部に入りました。先輩や他校のJRCメンバーなど同じ志を持った仲間と出会えたことが心強いと言います。「自分一人でボランティアに参加するより楽しいし、違う人の考え方を知ることが勉強になる」

と話すのは長田さん。齋藤さんは「手話や点字の勉強、海外JRCメンバーとの交流などで世界が広がりました」と声を弾ませます。

考え、実行する積み重ねが生む「自信」

同校のJRC部は、現在3年生4人と2年生2人の6人。規模的にはさびしい気もしますが、実は高校としては珍しい全校でJRCに加盟をしており、全生徒がJRCメンバーです。

JRC部顧問の渋谷浩さんは「JRCの態度目標である『気づき、考え、実行する』

東京都私立下北沢成徳高等学校JRC部
左から齋藤美佳さん、長田珠英さん



理科主任 渋谷浩さん

をお題目に終わらせないよう、さまざまな校内活動に反映させています。例えば体育祭では生徒が競技内容を企画するのが伝統。「全員が楽しめる体育祭に」をモットーに、運動が苦手な子も活躍できる企画が毎年出てくる。僕ら教師にとっても楽しみです」と語ります。

自ら考え、実行することの積み重ねで、生徒同士に「あの子はこんな力があるんだ」と認め合う関係性が生まれ、そこで得た自信が一人一人の行動力を高めていると渋谷さんは強調します。

「中学の頃は自分から意見を言う方ではなかった」と言うJRC部の長田さん

と齋藤さんもそんな中の一人です。齋藤さんは「クラスでの討議や委員会活動を体験して、自分たちで考える面白さが分かってきました。ときには衝突するけど、話し合えば解決できる」。長田さんも「自分のやりたいことの意見が全体に反映されるのが楽しい」と話します。

人の役に立つ経験でボランティア活性化

生徒たちの「自信」は、校外でのボランティア活動にもつながっています。例えば、東京都支部が毎年春にJRC加盟各校に呼び掛ける「上野動物園迷子相

談ボランティア活動」(写真右上)。同校では希望者が殺到するため、今年は3年生だけに応募を絞らざるを得ませんでした。また、合唱部が老人ホームを訪問し合唱を披露する(写真右下)など、JRC部以外のボランティア活動も活発です。

渋谷さんは「体育祭の企画づくりなどを通じて、他の生徒に『面白かった』などと喜んでもらえると、人のために行動する楽しさが分かるようになる。それが、誰かの役に立ちたいという心の育成につながっています」と語ります。



少子化の時代ですが、この10年で約73万人増「考える子どもたちに提供する取り組みが社会で評価されています！」

青少年赤十字 (JRC) 「生きる力」育む実践に 全国から熱い視線

助け合いや思いやりの心を広げる教育を通じて、「人道」を実践する力を育む青少年赤十字 (Junior Red Cross=JRC) に今、学校現場から大きな注目が集まっています。加盟校は幼稚園、小・中・高等学校の36%以上。JRCのメンバー(児童・生徒)も320万人を超え過去最高規模です。たくさんの課題を抱える教育現場の中で、JRCはどんな役割を果たしているのか。各校の実践の中から探りました。



メンバー数
326万9493人

加盟校
1万3654校

(平成27年度)



トレセンで発見した 「指導」をしない指導

岩手県矢巾町立矢巾中学校副校長 石川健さん



教師になった30年ほど前は校内暴力の時代。生徒たちをルールに従わせ、抑え込む生活指導にきゅうきゅうとしていました。ところが、教師3年目にスタッフとして参加したトレセンと呼ばれる研修では真逆。子どもたちへの「指導」をせず、号令もかけない。「気づき」「考え」「実行する」のを、待つのが僕らスタッフの役割です。びっくりしましたね。

「自己理解」通じて生きる力育む

現在の子どもの一番の問題は、忍耐力など生きる力の低下です。「子どもにはより良い環境を」という風潮の中、大人が先回りして問題を解決してしまう。自分

で道を切り開く経験をしていないが故に、子どもたちは困難にぶつかった時、簡単に折れてしまうのではないのでしょうか。こうした子どもたちに対してトレセンは、自己理解を重視した指導を行っています。グループごとに課題に挑戦するフィールドワークなどで、他のメンバーの発言や行動、自分との違いに注目させるのです。「A君はこう言ったけど、それはなぜか?」「私はこう行動したけど、それはどう考えたからだ」。他者というフィルターを通じて、自分自身への理解を深めていきます。

そうやって自分を「発見」できた時、子どもたちは変わるべき方向性を見いだします。突然、エンジンがかかったように動きだし、積極的にいるいろいろな提案をしたり、最終日には感動して泣き出したり。スタッフにとってもうれしい瞬間です。

仲間とともに困難を乗り越える力を

数年前に聴覚障害を持つ子がトレセンに参加したときのこと。互いの学校を

紹介し合うプログラムの最後に校歌を歌うことにしていました。聴覚に障害があると音程を取ることがとても困難で、歌は厳しいです。その子の順番が来て、みんなが固唾をのんで見守っていました。でも歌うことができず、最後は泣き出してしまったんです。

僕自身も複雑な感情を抱えて、その年のトレセンを終えたのですが、翌年、同じ生徒が参加。「先生、私は校歌を歌いに来ました」と僕に声をかけ、学校紹介の際にはみんなの前で歌ってくれた。それを見守る仲間も素晴らしい。歌い終わった後の、その子のうれし涙を僕は忘れることができません。子どもたちが支え合いながら成長していくさまを目の当たりにできるのが、トレセンの大きな魅力です。



「赤十字の宿泊型研修！」

リーダーシップ・トレーニング・センター

集団生活や学習・体験を通して、「気づき、考え、実行する」力を養うのがリーダーシップ・トレーニング・センター(トレセン)です。夏休みを中心に各都道府県支部の単位で開催されています。

兵庫県支部の様子

小学生～高校生のJRCメンバー49人が参加。「中・高校生メンバーが良い手本になった」「いろんな年齢の考え方や行動を感じる事ができたのが良かった」などの感想が出ました。



初対面に緊張した子どもたちですが、中高生メンバー企画のレクリエーションですぐに笑顔が広がりました。



応急手当や救急法などを学んだほか、昼食はカレーづくりに挑戦。夜はキャンプファイヤーで熱く盛り上がりました。



意見がぶつかったも互いを尊重。いろいろな気づきを得て、今後の学校生活にどう生かすか考えます。

全校で取り組む防災学習 青少年赤十字の防災教材を活用

愛知県西尾市立一色中部小学校 教務主任 稲垣育代さん



一色地区は埋め立て地で標高が低く、南海トラフ地震発災の際には、海から1.5キロの本校間際にまで津波が迫ってくるなど甚大な被害が想定されています。

ところが、これまでの防災の取り組みは避難訓練止まり。「これでは子どもの命を守ることはできない」との問題意識で、昨年度から全校での防災学習をスタートしました。その中で防災学習の教材「まもるいのち ひろめるぼうさい」を活用しています。

体系的に学べる防災知識

東日本大震災から5年が経過し、低学年には津波被害をイメージできない児童もいます。そうした点で、この教材に含まれている津波や土石流、火山噴火などの映像が収録されたDVDは、災害を具体的に理解する上で役立ちます。

もちろん一般的な防災の知識だけでなく、地域の問題に落とし込んでいかなければ、本物の力にはなりません。三河地震(1945年)の体験

者に話を聞いたり、防災マップを作成するなど地域との関連づけにも力を入れています。

育ってきた「災害から守る力」

防災学習にあたり、本校では目指す子ども像に「自分の命を自分で守れる子」を追加しました。東日本大震災で釜石市の小中学生が率先して避難を実践し、自らと地域の人を救った「釜石の奇跡」にみられるように、「子どもたちが自らを守っていく力を獲得しないかぎり、防災は機能

しない」と考えたからです。

1年間の学習を通じ、子どもたちの防災意識は確実に高まりました。例えば、今年4月1日に三重県を震源とする地震が発生しましたが、多くの子どもたちが自宅の机の下に隠れ、揺れが収まった後は避難所である学校に行こうと親を促したそうです。

防災学習を通じて、指示待ちではなく自らの判断で動ける子どもたちが育ってきたことを実感しています。



校区の危険箇所を探して学習する生徒たち。愛知県西尾市立一色中部小学校は、「まもるいのち ひろめるぼうさい」をきっかけに昨年度からJRCにも加盟

防災教材「まもるいのちひろめるぼうさい」

自然災害に向き合ってきた日赤と現場の教員が提案する「授業ですぐ使える防災教材」。小学1-3年生用、小学4-6年生用、中学・高校生用と3つのカテゴリに分かれており、「自然災害の正しい知識」「自ら考え、判断し、危険から身を守る行動」を災害ごとに選択できる映像教材や「思いやり、優しさ、命の大切さ」「コミュニケーション力」「想像力」を育むテキスト教材・資料を収録しています。この教材は全国の小・中・高校(未加盟校も含む)に配付。また、日赤のホームページからもダウンロードできます。



楽しく安全に海を楽しもう！ 小豆島で親子海洋教室

香川県

香川県赤十字安全奉仕団と香川県地区小型船安全協会による第31回親子海洋教室が、7月23日、小豆島のふるさと村で開かれ、参加した73人の親子らが水のレジャーの安全な楽しみ方を学びました。



水上安全法指導員の指導の下、参加者全員が上手に乗れるようになったレスキューボード

おぼれて心停止になった人の救助法として、心肺蘇生やAED(自動体外式除細動器)の使い方を学んだ後、参加者はレスキューボードやカヌー、ヨットなどにも挑戦。レスキューチューブやレスキューロープを使った水難救助体験も行われました。保護者からは「とても貴重な体験ができた」「海の楽しさだけでなく安全管理の大切さも理解できた」という声が出ました。

赤十字キッズプログラム 小学生が人命救助などを体験学習

栃木県

栃木県支部は7月24日、今年で3回目となる「赤十字キッズプログラム2016」を開催。67人の小学生が参加し、青少年赤十字(JRC)の高校生メンバーの協力も得ながら、救急法や水難救助、無線通信などを体験しました。



耐熱性ビニール袋を使った炊き出しにも挑戦しました

盛りだくさんのメニューに元気いっぱい挑戦した子どもたちからは「紙とラップでコップやお皿が作れた」「役に立つことをたくさん学べてよかった」「赤十字がいろんなことをやっているのが分かった」といった元気な声が。保護者からは「心肺蘇生の体験を通して、命の大切さについて親子で学ぶことができた」などの感想が寄せられました。

献血で親の背中を見せる夏 ルームでキャンペーン

徳島県

「子ども連れだと献血に行きにくい」という声にこたえて、徳島市の献血ルーム「アミコ」では7月1日から8月10日まで、親子で献血ルームを訪れた方を対象としたキャンペーンを展開。対象者には採血ベッドの横に子ども用のいすを用意し、親が献血する姿を見学した子どもたちに記念品をプレゼント



「大きくなったら献血してね」という職員の声がけに「針が怖くない大人になります」との回答も

しました。「パパ・ママ」の腕に針が刺さる瞬間は言葉が出ない様子の子もたちも、チューブに赤い血液が流れ始めると、「痛い?」「どんな気分?」と質問攻め。保護者からは「子どもたちに献血する姿を見せられて良かった」「世の中を広く見られる子になってほしい」といった声が聞かれました。

出前健康講座「ハートラちゃん講座」が大好評

長野県

諏訪赤十字病院(諏訪市)が取り組む出前健康講座「ハートラちゃん講座」が地域で注目を集めています。同講座は、老人クラブや介護施設などの要望に応じて、同院の医師・看護師らが地域に出向き、病気予防や健康づくりなどの話をするもの。今年4月にスタートしたばかりですが、年内はほぼ予約でいっぱいになるなど、好評を博しています。



公民館で行われた講座では、思い出話を花を咲かせ、いろいろな話をしてくれました

講座メニューは、救急法や幼児安全法、膝痛・腰痛、糖尿病予防、がん治療の最新情報など11種類。「地域における高齢者支援」の講座では、参加者から「自分で生き方を考えるための参考になった」などの声が聞かれました。

「弾けました！」 視覚障害者がウクレレ初挑戦

神奈川県

日本赤十字社が指定管理者として運営している視覚障害者のための総合的な福祉施設の「神奈川県ライトセンター」で8月2日、ウクレレ体験教室が開かれ、11人の視覚障害者がウクレレ演奏を楽しみました。



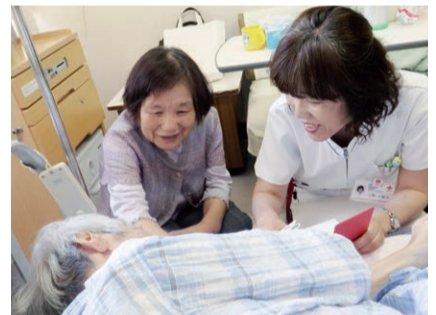
ボディの形状や弦の位置など一つ一つを手と指で確認してからスタート

参加者のほとんどはウクレレ初体験。ウクレレの形状や仕組みをゆっくり手で確認した後、演奏に挑戦しました。コード(和音)の練習に戸惑う人もいましたが、マンツーマンの指導で少しずつ良い音が室内に響き始めます。教室の最後には全員で「ハッピーバースデー」を合奏できるまでに到達。「これからも続けて習いたい」など、会場は参加者の笑顔であふれました。

おいしく食べて健康づくり 柏原赤十字病院が知事表彰

兵庫県

柏原赤十字病院(丹波市)がこのほど、平成28年度の優良給食施設として知事表彰されました。



看護師が栄養状態を把握するため、食事量のカロリーはカルテにも記載

食事を残さず食べてもらえるよう「目指せ! 喫食率100%」を目標に掲げ、取り組みを進める同院。入院時には、栄養士が食事の量や好みの聞き取りを行い、可能な限り患者一人一人の思いに沿った食事を提供しています。また、昼食・夕食時には栄養士が病室を訪問し食事の状況を把握するなど、きめ細やかな栄養管理も行っています。

知事表彰は、健康づくりの推進・向上に優れた功績があった施設が対象で、同院の受賞はこうした取り組みが評価されたものです。

知って良かった! 日赤のドクター&ナースが教える健康豆知識

⑳ 風邪でもないのに続くせき 「せきぜんそく」かもしれません 那須赤十字病院 副院長(呼吸器内科) 阿久津郁夫



気管支ぜんそくに比べて、「せきぜんそく」という病名にはなじみがない方が多いかもしれません。しかし、せきぜんそくは大変よく見受けられる病気です。胸部レントゲンの異常やぜん鳴(呼吸時のゼーゼー、ヒューヒューという音)がないにもかかわらず、8週間以上せきが止まらない慢性咳嗽の40%弱がせきぜんそくと考えられています。

の痛み、発熱など、せき以外の症状ありません。風邪ではないので、総合感冒薬や鎮咳薬を飲んでも良くなりません。冷氣・暖気、タバコの煙、会話、運動、飲酒、精神的緊張などがせきの誘因になります。エアコンの風には直接当たらないようにし、喫煙はもちろん他人が吸っている煙にも注意しましょう。

せきぜんそくの前段階と考えられています。早期に診断し、治療を開始することが大事です。

診療所などでせき止めをもらっても効果が無い場合や原因の分からないせきが長く続くときは、呼吸器内科・アレルギー内科の専門医を受診してください。胸部レントゲン、CT、肺機能検査、呼気中一酸化窒素濃度などから、せきぜんそくなのか、他の疾患なのかを的確に診断・鑑別することができます。治療は、β₂刺激薬という気管支を拡張する薬、抗アレルギー薬のひとつであるロイコトリエン受容体拮抗薬を使います。さらに吸入ステロイドという薬を使用することで気管支ぜんそくへの移行も防げる可能性があります。



▲せきぜんそくの予防・軽減には、アレルギーとなるダニやハウスダストの掃除も大切!

那須赤十字病院
〒324-8686
栃木県大田原市中田原 1081-4
TEL 0287-23-1122 (代表)

平成28年台風10号等災害における 救護活動および義援金のご案内

平成28年8月に発生した台風10号に伴う大雨等により北海道・岩手県を中心に大きな被害が出ました。日赤の救護班（DMAT:災害派遣医療チームを含む）などは、医療救護や各地の避難所における巡回診療および健康相談、医療ニーズの調査などを実施。また、毛布、緊急セット、バスタオル、パーテーション、敷きマットといった救援物資を配分したほか、北海道支部では被災自治体などと調整し、被災者と現場職員を対象としたリラクゼーションルームなどによるこころのケア活動を行いました。

この災害で被災された方々を支援するため、下記のとおり義援金を受け付けています。お寄せいただいた義援金は、被害状況に応じて案分され、各被災道県に設置された義援金配分委員会を通じ、全額が被災された皆さまに届けられます。

皆さまの温かいご支援をよろしくお願いいたします。



義援金名称 平成28年台風10号等災害義援金

受付期間 平成28年10月31日(月)まで

口座記号番号 00100-6-324140

口座加入者名 日赤平成28年台風10号等災害義援金

※窓口でのお振り込みの場合は、振込手数料は免除されます
 ※窓口でお渡しする半券（受領証）は、寄付金控除申請の際に必要となります
 ※9月30日で北海道支部の受付は終了していますので、10月1日以降に収納された義援金は、岩手県の配分委員会へのみ届けられます

詳しくは日本赤十字社のホームページ（<http://www.jrc.or.jp>）をご覧ください

置いてても飲んででも日赤支援 寄付金付き自販機が100台突破

沖縄県

「置く人も、飲む人も、気軽にできる社会貢献」として沖縄県支部が設置に取り組んでいる赤十字寄付金付き自動販売機の台数がこのほど100台を突破しました。設置台数は全国最多で、年間寄付金額は約120万円に上ります。

同県支部では平成24年にスタートした寄付金付き自販機の設置促進。設置台数が伸びているのは賛同する飲料販売会社が10社と多いのが要因です。100台目となる自販機を社内に設置した株式会社大門商事（浦添市）の比嘉潤潤市長は「飲み物を買うことで、小さな社会貢献ができる。これからも赤十字を支援していきたい」と語っています。



大門商事は、飲料会社のキャンペーンを活用し、寄付金付き自販機とともにAEDも設置

久光製薬からAED機材 リオ五輪代表選手も講習体験

久光製薬株式会社ほっとハート倶楽部から「救急の日」の9月9日、AED練習器96台と救急法のWeb教材製作費が日本赤十字社に寄贈され、日赤本社で贈呈式が行われました。寄贈された練習器は、本社と都道府県支部に配布され、講習に活用される予定です。

贈呈式後に行われたAEDの体験講習会には、同社の女子バレーボールチーム「久光製薬スプリングス」のメンバーでリオ五輪にも出場した石井優希選手と長岡悠選手も参加。「自動車教習で受講しましたが、忘れていたことがありました」「いざというときに備え、こういった経験は大切ですね」と真剣な表情で感想を述べました。



さすが五輪代表選手！すぐにコツをつかみ的確に胸骨圧迫を行う石井選手と長岡選手

人道支援のあり方を考えよう 今年で30周年 赤十字シンポジウム2016

日本赤十字社がNHKと共同で行っている募金キャンペーン「海外たすけあい」*（12月1～25日）の関連イベント、赤十字シンポジウム2016を11月12日（土）に開催します。

今年で30周年を迎える赤十字シンポジウム。多様な文化と共生、地域社会の強化、ボランティア、イノベーションなど今求められる人道支援のあり方とは？ これからの人道支援のあり方を共に考えていく機会とします。

*世界各地の紛争、災害、飢餓、病気など、人として最低限の生活条件さえ満たされず、苦しんでいる多くの人々を支援するための募金キャンペーン。全国から寄せられた寄付金は援助を待つ世界中の人々のために使わせていただいています

日 時：平成28年11月12日（土）13:30～15:30（開場13:00）

会 場：表参道ヒルズ スペースオー（東京都渋谷区神宮前4-12-10）

コーディネーター：宮崎 緑（千葉商科大学 国際教養学部教授・学部長）

パネリスト：田中 明彦（東京大学 東洋文化研究所教授）

森田 正隆（明治学院大学 経済学部経営学科教授）

安田 菜津紀（フォトジャーナリスト）

近衛 忠輝（日本赤十字社社長 国際赤十字・赤新月社連盟会長）

参加申込：入場無料ですが、事前のお申し込みが必要です（申し込み締め切りは10月28日）。郵便はがき、FAX、インターネットのいずれかの方法でお申し込みください。お申し込みは1通につき1人様となります。詳しくはホームページ（<http://www.nhk-p.co.jp/redcross2016/>）をご覧ください。



プレゼント

手回し&ソーラー充電LEDハンドライトを5名様にプレゼントいたします。以下の項目を明記のうえ、郵送・FAX・メールでご応募ください。



- ①お名前（匿名をご希望の方は、その旨もご記入ください）
- ②郵便番号・ご住所 ③電話番号 ④年齢
- ⑤赤十字NEWS10月号を手にした場所（例/献血ルーム）
- ⑥10月号で良かった記事、興味深かった記事はどれですか？（いくつでも）
 - ①今月の出会い
 - ②第1回防災推進国民大会
 - ③赤十字ユース委員会がスタート
 - ④平成28年熊本地震災害義援金情報
 - ⑤入試案内日赤の看護大学・看護専門学校
 - ⑥10月は「里親月間」
 - ⑦JRC「生きる力」を育む実践に全国から熱い視線
 - ⑧エリアニュース
 - ⑨平成28年台風10号等災害義援金情報
 - ⑩シンポジウム
 - ⑪常任理事会報告
 - ⑫健康豆知識
 - ⑬プレゼント
 - ⑭人道支援の現場から 特別編
 - ⑮2016年イタリア中部地震救援金情報
- ⑦赤十字NEWSのご感想、扱ってほしいテーマ、その他Voice（読者の声）への投稿もお待ちしています。

応募先 ● 郵 送 / 〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3
 日本赤十字社 広報室
 赤十字NEWS10月号プレゼント係
 FAX / 03-6679-0785
 メール / koho@jrc.or.jp
 （件名「赤十字NEWS10月号プレゼント係」）

ウェブ上からもアンケートにお答えいただけます
http://questant.jp/q/news_201610



応募締切 ● 10月31日（月）必着
 ※当選者の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。

訂正とお詫び

赤十字NEWS9月号（第916号）の7面「唐津赤十字病院が新築移転」の記事で、「同市内のJR西唐津駅近くに新築移転しました」と掲載しましたが、正しくは「JR和多田駅近くでした。訂正し、お詫び申し上げます。

常任理事会開催報告

平成28年9月15日、本社において平成28年度第5回の常任理事会が開催されました。

記

1 資金の借入について
 （諏訪赤十字病院の電子カルテシステムの更新及び医療機器購入にかかる資金の借入）
 審議の結果、資金の借入については原案のとおり議決されました。

また、医療事業にかかる平成28年度第1四半期のグループ運営の進捗状況及び経営状況、日本赤十字社健康保険組合の設立並びに予算の補正にかかる7月及び8月分の社長専決事項の決定状況について、それぞれ報告しました。

WORLD NEWS

人道支援の現場から
特別編

“自分ごと”として 取り組みたいシリア人道危機



五十嵐 真希 Maki Igarashi

日赤中東地域代表 連盟・北アフリカ地域
保健コーディネーター

日赤の中東地域代表の事務局があるレバノンの首都ベイルート。街角の路地には、過去の紛争時の銃弾の跡や壊された建物が多数残されています。そして街の別の一角には、パレスチナ難民キャンプ、山岳地方にはシリア難民キャンプが点在しています。実は人口420万人の同国のほぼ3分の1が難民で占められているのです。

生活や安全、将来の展望などすべてに不安な日々を余儀なくされている難民。彼らを支えているのは、自らも難民であるパレスチナ赤新月社の医師や看護師たち、そして、レバノン赤十字社のボランティアたちです。最も脆弱な人々が少しでも普通に生活できるよう、水や医療を提供し、雪の降る夜には、十分なサポートができない自分を悔しく思いながら、寄り添い、語り合う。

こうした状況下の活動は、中東の赤十字・赤新月各社に共通しています。その最たる組織がシリア赤新月社です。ここでは、この6年間に54人のシリア赤スタッフとボランティアが命を落としまし

た。にもかかわらず、今日も自身を危険にさらしながら人道支援に奔走しているのです。彼らを守るのは、国際人道法で認められている中立の標章として保護される赤新月の旗とジャケットのみ。

日赤として初のチャレンジ

そんな中東に日赤が事務局を立ち上げたのは昨年9月。私は、国際赤十字・赤新月社連盟の中東・北アフリカ地域の保健コーディネーターとの兼務で、日赤地域事務局の代表を務めています。駐在員が常駐し、腰を据えた中東支援に取り組むのは、日赤として初めてのチャレンジです。

これまでも日赤は、シリアとその周辺国の赤十字・赤新月社を通じ、難民・国内避難民に対する支援を行ってきました。その内容は、水や食料、住居、医療の提供など。夏には50度を超え、冬には雪が舞う厳しい自然環境の中、これらの支援は“命をつなぐ頼みの綱”になっています。

しかし、紛争が続く地域の中には、赤十字・赤新月でさえ入ることが許されない場所が少なくありません。最も支援が必要な人に、支援が届けられないのです。その結果、どれだけ人の命が失われているのか。言葉には言い尽くせない焦燥感と日々闘っています。

出口の見えない不安

アフリカやアジア各国の支援地の多くは、



シリア赤新月社の救急車で運び込まれたオムラン君

貧しいが故の問題を抱えていますが、それだけに支援の成果が見えやすいともいえます。しかし、貧しさとは別の、複雑な問題が絡み合った中東はまったく別。終わりの見えない紛争の中、問題が次から次へと吹き出し、出口を思い描くことすらできません。そして今日も信じられないほどの数の市民が命を落とし、母国を離れ、難民キャンプでは学校に通うことすらできない子どもたちが勉強できる日を恋い焦がれて一日を過ごしています。

日本での中東紛争のイメージは、“武装勢力がお互いに殺し合っている”というものかもしれませんが、でも違うんです。犠牲者の大半は、紛争にまったく関係のない普通の市民。大勢の女性や子どもたちが、一方的に大切な「命」を失い続けています。

そんな中東と日本との間を行き来していると、違う次元へ旅をしているかのような錯覚に陥ります。日本に暮らす皆さんにとって“別世界の出来事”なのは当然かもしれません。でも、命の価値はみんな同じはず。日本での災害やさまざまな出来事と同じように、中東で今起きていることに関心を持ってほしいのです。そのことが、一人でも多くの「命と笑顔」を守る力になると信じています。



© SARC

イタリア中部地震被災者支援へ救援金受付中

イタリア中部ペルージャ付近で8月24日に発生したマグニチュード6.2の地震により、アマトリーチュなど近隣の村々では多くの家屋が倒壊。住民多数が下敷きになり、死者296人、避難者が2500人という大きな被害が出ています。

イタリア赤十字社は300人以上のスタッフとボランティアを被災地に派遣。救助活動や応急救護、こころのケアなどに取り組みました。

日赤では、この地震の被災者支援に向けた救援金を受け付けています。寄付いただいた救援金は、被災者への救援物資の確保、中長期の復興支援事業などにあてられます。



© IFRC

救援金名称 2016年イタリア中部地震救援金

受付期間 平成28年11月30日(水)まで

受付方法

①郵便振替(ゆうちょ銀行・郵便局)

※窓口でのお振り込みの場合は振込手数料は免除されます。

口座番号 00110-2-5606 / 口座加入者名 日本赤十字社

②銀行振込

三井住友銀行 すずらん支店 普通 2787760
三菱東京UFJ銀行 やまびこ支店 普通 2105765
みずほ銀行 クヌギ支店 普通 0623374

※口座名義はいずれも「日本赤十字社(ニホンセキジユウジヤ)」。
※ご利用の金融機関によっては、振込手数料が別途かかる場合があります。

③クレジットカード・コンビニエンスストア・Pay-easy
詳細は、日赤のホームページ

検索 日本赤十字社 救援金 イタリア中部地震 をご覧ください。

(本情報は2016年9月26日現在のものです)